



VAIO GT

PercaTV
= PersonalCasting

林 岳里 はやし・たけさと

近著として共著の『WEB DESIGN MANUAL sideB/ TOOL 編』(翔泳社より発売中)がある。Flashとストリーミング(RealSystem)をメインにライター、セミナー講師をこなすテクノロジスト。

Jump www.takesato.com

ブロードバンド時代のキラコンテンツ

バイオGTではじめる パーソナル キャストイング

テキストと静止画のウェブに加えて、映像と音声によるコミュニケーションが活発化する時代がやってきた。既存のコンテンツに飽きてしまったら、自分から作り出してみよう。離れている人とイベントを共有する、脚本を書いてドラマを作ってみる、社会問題をレポートする、パーティーを中継する……。そこには個人による自由な放送だからこそできる可能性が広がっている。パーソナルキャストイングの世界へようこそ!

パーソナルキャストイングの時代がやってきた!

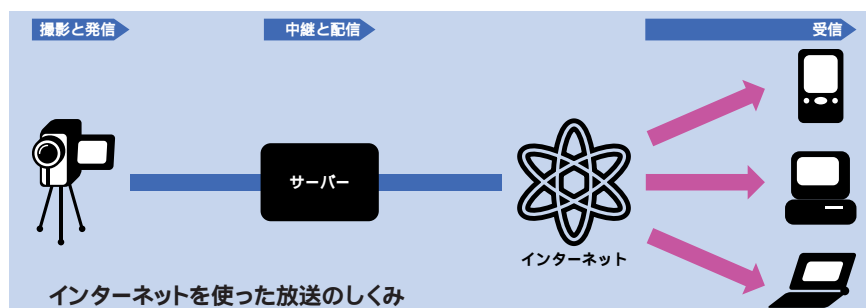
電波を使って放送局から番組を配信するのが広域放送である「ブロードキャスト」の世界。たくさんの人に配信するためには大きな設備を準備したり、大勢のスタッフを準備したりする必要があって、内容は必然的に公共性が高く、ターゲットを広く設定したものである。

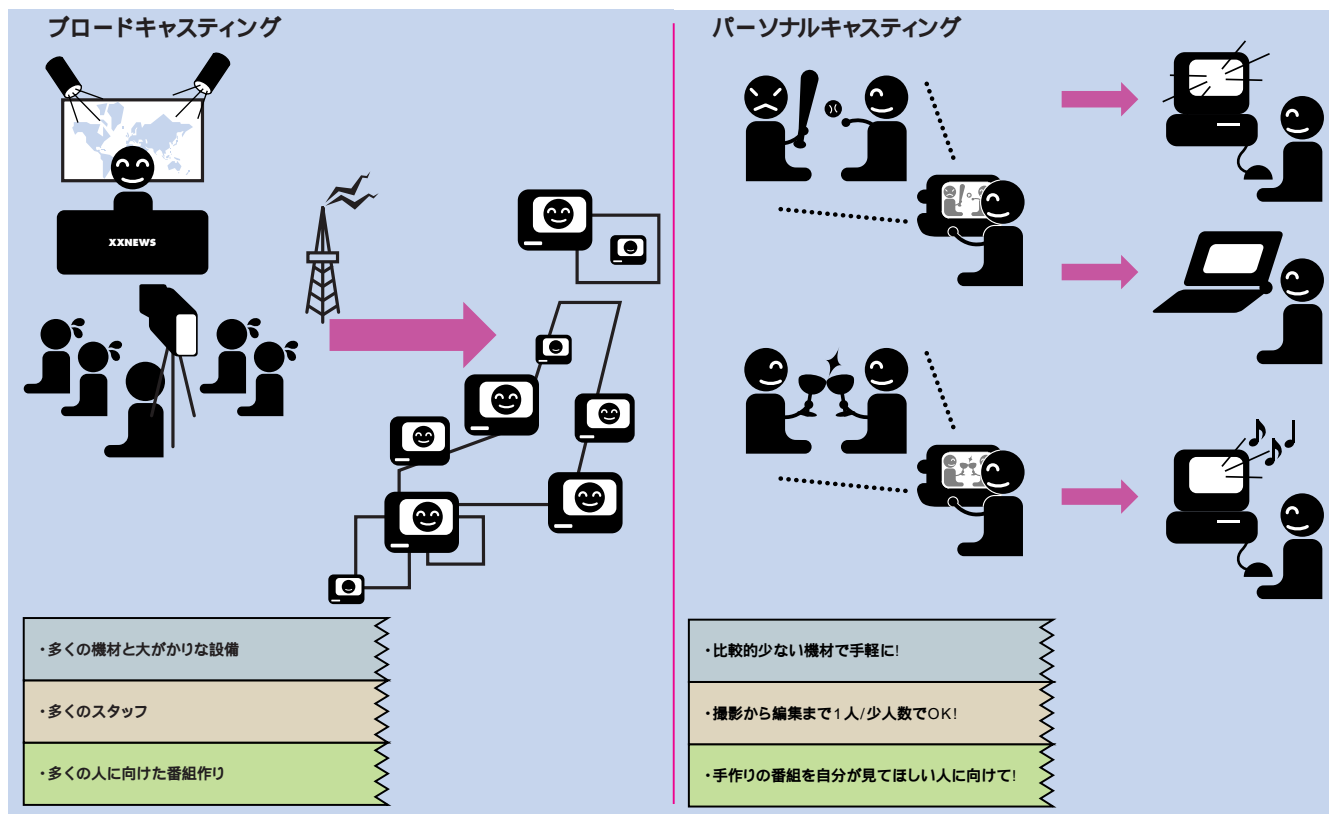
それに対して「パーソナルキャスト」は、インターネットの時代だからこそ実現した、個人による番組配信だ。これまで映像を配信するのに大きな壁となっていた要素は、インターネットに接続したパソコンと撮影機材があればOKだ。配信サーバーさえ用意で

きれば、ストリーミングで誰でも簡単にリアルタイムで映像を公開できる。番組内容はすべて手作り、大切なのは「こんな情報を発信

したい」「こんな番組を届けたい」という意気込みだ。

パーソナルキャストの試みは今に始





まったことではない。たとえばずっと前から行われているウェブカメラでのコーヒーマーカーの生中継^{Jump}などはそのいい例だ。研究室のコーヒーマーカーの残量を知りたいからインターネットで静止画を配信してしまう。ここにパーソナルな放送の原点があるといってもよい。ただ、静止画であれば比較的安くシステムを用意できるが、映像と音声を含ませた動画配信となるとそう簡単にはいかない。ビデオカメラで撮影し、PCに転送して変換したあと、配信用サーバーへデータを転送してようやくみんなに公開できる。カメラの知識だけでなく、キャプチャーや変換の知識、そしてネットワークとサーバーの知識などが必要となるので、現実には「誰でも手軽に」とはいかない。

そこで今回取り上げるのが、先日発売されたカメラ内蔵型のノートPC「バイオGT」と専用の配信サービス「PercasTV（パーキャスTV）」を使う方法だ。バイオGTのキーワードは「誰でも簡単にパーソナルキャスティング」。ハードウェアに専用のソフトと配信サービスが用意され、撮影から配信までがこれ1台でできるようになっている。面倒な設定を排除して、ブラウザで配信を予約して放

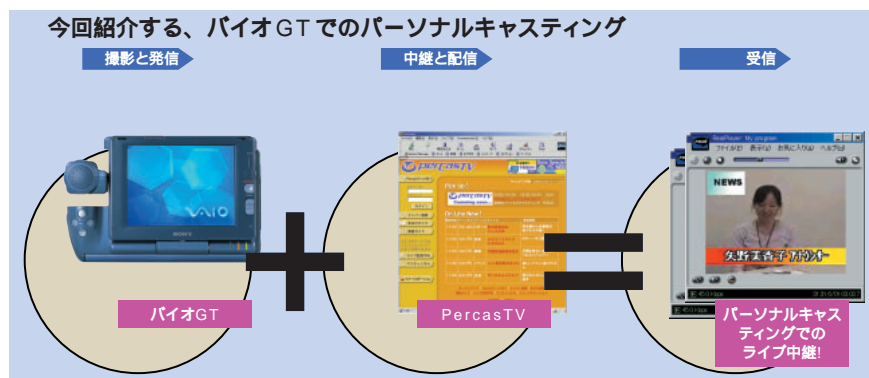
送できるのが特徴だ。

パーソナルキャスティングは従来のメールやウェブに加え、映像と音声を取り込んでより一歩進んだコミュニケーションを提供してくれる。たくさんの人がパーソナルキャスティングを通じて、ある時間を共有する。ライブ中継はその場にはいない人も臨場感を味わえる最高の手段だ。右にバイオGTを使って配信したら面白そうなコンテンツを挙げてみた。思いつき次第ではいまままでにない、誰もが驚くような番組も生まれてくるだろう。

The Trojan Room Coffee Machine
^{Jump} www.cl.cam.ac.uk/coffee/coffee.html

こんな機会にぜひ!

- | | |
|---------|------------|
| 結婚式 | 動物園や水族館の中継 |
| 路上ライブ | 開花のようす |
| 文化祭 | お遊戯会 |
| 運動会 | 花火大会 |
| 誕生日 | 趣味の講座 |
| リサイタル | |
| オリジナル番組 | |
| お祭り | |
| 発表会 | などなど |



光学10倍のズームレンズ、手ぶれ補正、i.LINK端子、68万画素CCD(有効34万画素)、ステレオマイク内蔵など、バイオGTのスペック表にはまさにビデオカメラのような用語が数多く記されている。パーソナルキャスティングに必要な機能を余すところなく搭載したバイオGTは、今までのノートPCというカテゴリーには収まらない、新しいジャンルを誕生させた。



I/O端子(左側面)

USB端子やヘッドホン端子、マイク端子のほか、カバーの下には内蔵モデムなどの端子が付いている。

PCカードスロット

Type IIのスロットにPHSカードやISDNカードを差してPercasTVに映像を送る。中継時以外はほかのPCカードも使えるので拡張性も十分だ。



ステレオマイク

ディスプレイの上に付いているが、撮影時は撮っている人の音を拾いやすいので、外部マイクを利用できるならばマイク端子に接続して使ったほうがよい。



BACKボタン

メニュー選択でのキャンセル操作や階層を1つさかのぼるときに使う。

ジョグダイヤル

メニューの選択。上に回すとメニューカーソルが上に移動する。

キャプチャーボタン

撮影、録画ボタン。ビデオ撮影時に録画を止めるときにはもう1回このボタンを押す。

ZOOMレバー

レンズのズームを操作。レバーを下にスライドすると広角に、上にすると望遠になる。

PCG-GT1

Jump www.vaio.sony.co.jp

メーカー : ソニー

価格 : オープンプライス
(SonyStyleでの価格は28万5,800円)

OS : ウィンドウズMe

CPU : Crusoe TM5600 / 600MHz

メモリー : SDRAM 128MB (最大192MB)

ハードディスク : 約20GB

バッテリー駆動時間 : 約2~5時間
(バッテリーパックS使用時)

本体寸法 : W241 x H40 x D155.5mm (手前最薄部)

重量 : 約1.1kg (バッテリーパックS装着時)

1024 x 768ドット、フルカラー表示の可能な6.4インチのTFTディスプレイは普通のノートPCよりかなり小さい。



I/O端子(右側面)

右側面にはAV端子とi.LINK端子のほか、MagicGateに対応したメモリースティックスロットが付いている。MPEG形式などで書き出せば、比較的長時間の動画でも持ち運びは簡単だ。



スペシャルボタン

カメラシューティングスタイルのときに、キーボードの代わりに使う。A、B、MENU、アプリケーションの4ボタン。

三脚穴

約1.1キログラムとコンパクトなバイオGTだが、カメラを両手で構えて長時間撮影するのは大変だ。そこでバイオGTには三脚固定用の穴が底面に用意されている。

MENUボタンを押すと、専用のシステムメニューが起動する。ソフトの起動からカメラの設定まで基本的な設定はここで選べる。



内蔵カメラ「MOTION EYE」

ピント
(マクロ撮影時)



ズーム

通常の「PCスタイル」からキーボードとディスプレイ画面を90度開き、ディスプレイをひねって回して折りたたむと「カメラシューティングスタイル」に変わる。キーボードが使えなくなるが、ジョグダイヤルとスペシャルボタンだけで手軽に操作できるようになっている。

MENUボタンを押すと、専用のシステムメニューが起動する。光学10倍、デジタル40倍のレンズはオートフォーカスと手ぶれ補正機能を備えていて、動きの速い被写体を撮影する際も安心だ。近くのものを撮るときにも、先端のフォーカスリングを手で回してピントを合わせられる。ソフトの起動からカメラの設定まで基本的な設定はここで選べる。

S O F T

カンタン操作の撮影ソフト「URecSight」

バイオGT付属の「URecSight」は映像を撮って管理するためのソフトで、動画や静止画の撮影と管理を行う「ImageStationモード」、そしてライブ中継を行う「CastaDriveモード」の2つが用意されている。いずれもジョグダイヤルと各種専用ボタンで操作できる。バイオGTでは誰でも簡単にパーソナルキャスティングを実現するために「CastaDrive」という仕組みを新たに開発し、これに沿った「CastaDrive」モードでは撮影からエフェクト、配信までをこのソフト1本でできるようになっている。

URecSight for CastaDrive

起動して「ライブ配信」メニューを選ぶと、テレビ局の編集画面のような画面が飛び込んでくる。左上には撮影中の映像が、中央にはA、Bのスペシャルボタンを押して随時加えられるエフェクトがリスト表示される。



URecSight for ImageStation



ライブ以外でのカメラ撮影モード。具体的には「STILL」(80×60～640×480の静止画)、「LONG MOVIE」(320×240または640×480のAVI)、「NET MOVIE」(160×120のMPEG1またはAVI)の3つから選べる。

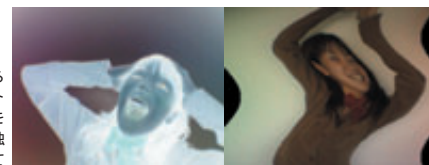


撮ったビデオや静止画は「見る・送る」モードでリストに追加し、画像と動画の共有サービス「ImageStation」(www.jp.imagestation.com)にアップロードしてオンデマンドで公開できる。



フラワー

ハート



ネガポジ反転

うねうね

初期状態で登録されているエフェクトの一例。ビットマップとWAVファイルを組み合わせれば字幕など独自のエフェクトを作成して追加できる。

S E R V I C E

予約制のストリーミング放送局「PercasTV」

「PercasTV」(www.percastv.net)は、バイオGTから発信する番組の予約から配信までをウェブ上で一括してできる有料サービスだ。番組を視聴するユーザーは、ライブ中継の時間になったらこのサイトに接続して「本日の番組」から目的の中継を選べばOKだ。配信タイプには誰でも見られる「パブリック」と、視聴の前にIDとパスワードの入力が必要な「プライベート」がある。

PercasTV

会議室やカラオケボックスのように、視聴できる定員の決まった「チャンネル」と予約時間を決める方式。定員は10人から200人まである。ちなみに同時に10人まで見られるチャンネルで10分間の中継を行うと、料金は1,500円となる(なお、年内は無料で中継予約ができるキャンペーン実施中)。



配信予約の手順



配信にはあらかじめメンバー登録が必要だ。登録後、トップページからメンバーIDとパスワードを入力してログインし、「ライブ配信予約」画面が表示されたらカレンダーで予約日を選ぶ。



次は開始時刻と配信時間、チャンネルを選択する。チャンネル名の右には同時に番組を見られる定員が書かれているので、放送する番組に適当な規模を考えてチャンネルを慎重に選ぼう。



次はライブ情報の入力だ。番組名と配信者名を記入しよう。番組名はPercasTVの番組表にも記載され、PercasTVのサイトを訪れて番組を見る人のための情報となるので、わかりやすく記入したほうがよい。



予約内容を確認する。なお、これは仮予約なので、このあとに届く予約確認メールをもとに、番組の開始3時間前までにクレジットカードでの料金決済などを行う「本予約」をしなければならない。

説明はともかく、理解するためには実際にやってみるのが一番! 今回は実際にバイオGTを使った配信テストを行ってみた。今回は発売前に実験を行ったので、あくまでもテストケースだが、これを参考に多くの魅力的なコンテンツを作してほしい。

今回使用した機材

バイオGT、三脚

PHSカード

C@rd H"64 PHS LINK64 MC-P200

 www.sii.co.jp/mc/product/mcp200.html1 私が講師です! **ON AIR**
セミナーや講演を中継

新商品の発表会やセミナー、講義などをインターネットで配信してみよう。配信側は大きな会場を確保したり、手紙やFAXで招待状を送ったりする必要はなく、配信の準備をしてメールでライブ情報のURLなどを送るだけ。視聴側は自分のデスクに座ったまま参加できる。



会議室などで会場のセッティング。部屋が狭くても、モニターの向こうにはたくさんの聴衆が待っている。



動きが小さいので帯域が低くても画質が問題になることもない。ディスプレイを反対側にひねれば1人でもライブ中継ができる。

2 気分はリポーター!
どこでも突撃報道番組

テキストと画像で伝えるよりも、動画のほうがいろいろなことを伝えられる。パーソナルキャスティングを使って今日からインタビュー取材に駆け回ろう。ウェブページでは伝えられない、言葉の持つニュアンスや現場の雰囲気配信できる。



カメラシューティングスタイルでどこへでも突撃取材! 本当に何が起ころうかわからないのもパーソナルキャスティングの楽しさの1つだ。



対話型のインタビュー。手持ちでも三脚でも好きなほうでOK。インタビューはカメラ目線で行うという報道番組らしくなる。

3 スポーツやパーティーなど、身近なイベントを中継!

今度は個人的な集まりの中継だ。意外と盛り上がったのがボーリングの生中継だ。自分のレーンにあるスコアモニターの画面を撮影してみるとさすがに文字は見えなかったものの、投げる様子やガーターで落ち込むところなどが中継されるので、参加できない人も状況がよくわかる。ライブ中継されれば草野球でもメジャーリーグの雰囲気味わえる!?



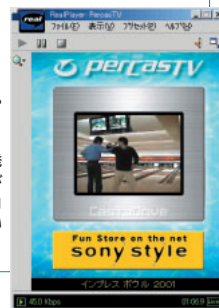
長時間の場合、通常は三脚などに固定するが、プレイヤーに迫るように視点を動かしたいのでズームやピントを駆使しよう。



視点の移動や選手の動作が大きいサッカーや野球などは中継しづらい。楽しい様子や歓声など、臨場感を演出するように心がけよう。

帯域による
配信画像の比較

20 kbps
通常はこの画質での配信となる。この品質では画面に動きがあると画像が大きくブレてしまいがちだ。



45 kbps
ばやけることも少なくなり、動きもはっきりする。逆に発信側の回線が不安定だとコマ落ちしやすいのが難点だ。

PercasTVの番組を視聴するには、バージョン7以上のリアルプレイヤーが必要になる。

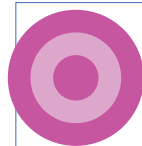
リアルプレイヤー8

CD-ROMに収録先:

【Win】Win Real8

【Mac】Mac RealPlayer





パーカスマスターへの道

何度かライブ中継を行えば、自然とやり方を覚えていくが、できれば視聴者が楽しめる番組を作りたいものだ。ここでは配信テストで得た経験をもとに“番組作りのヒント”を列挙してみた。ぜひ参考にしてほしい。

中継を始める前に

- 1 インターネットに継続して接続できる場所を確保しよう。PHSカードを使う場合は、確実にアンテナが立つ場所を。
- 2 バッテリーは余裕を持って。PHSカードで通信しながらでも1～2時間は撮影できるが、予備のバッテリーやACアダプターを持ち歩けば安心だ。

撮影のポイント

- 1 インタビューなど、きれいに声を拾いたいときはマイクを別に用意するとよい。バイオGT本体が発するピー音などもできれば消そう。
- 2 音声のレベル確認などができるように、三脚で固定したときなどはヘッドホンがあるとよい。
- 3 バイオGT本体だけではライティングは貧弱だ。ライブハウスや夜のイベントなど、暗い場所での撮影時は明かりを確保しよう。
- 4 カメラの移動などに備えてあらかじめ「しばらくお待ちください」などの静止画をエフェクトとして用意するとユーザーに親切。
- 5 バイオGTのほかにもう1台、メールやウェブ掲示板を読めるマシンを準備するとおおよい。視聴者参加型番組への道が開ける。

PercasTVの上手な使い方

- 1 PercasTVの配信時間予約は10分単位で、開始5分前から配信のための接続ができる。ライブ配信時間はギリギリの予定でなく、多少前後に余裕をもたせると安心できる。
- 2 配信のビットレートは通常20kbps。ライブ配信の設定を変更すれば34kbpsや45kbpsも選べるが、高いビットレートを選ぶときは視聴者の接続環境を事前に確認しよう。

楽しい番組を作るために

- 1 失敗を恐れず、いろいろなアイデアを番組化できるようにチャレンジしてみよう！ただし番組を始める前にしっかりと内容を企画して段取りを立てることも重要だ。
- 2 キャスターやインタビュアーに積極的になりきろう！照れるのは仕方ないが、何を伝えようとしているのかわからなければ見ている側も戸惑ってしまう。
- 3 ヘッドホンやガンマイクを装備して本格的に「ひとりTVクルー」をやってみるのもおもしろい。形から入るのは意外と効果的だ。

開発者が語るバイオGT

「誰でも簡単にパーソナルキャスティング」を実現してしまったバイオGT。製品発売直前の忙しいなか、ソニーのパーソナルITネットワークカンパニーで開発を担当した3人に話をうかがった。



左から福田純子さん、西村孝則さん、井原圭吾さん。サービス実験のためのテスト中継で蓄積したノウハウをいろいろと教えてくれた。

Q: 今回の製品が誕生したいきさつを教えてください。

A: 1999年の秋に行われたCOMDEXの基調講演で社長の出井が「パーソナルブロードキャスト」というコンセプトを発表しました。これは個人が作ったコンテンツをインターネットを通じて世界に発信するという意味です。インターネットの時代に入り、ますます個人の情報発信が主流になっていきます。ソニーではすでにバイオC1で「カメラ付きパソコン」を世に送り出しましたが、ズーム機能を持たせ、さらにグレードアップさせた製品をこの1～2年ほど社内で検討してきました。当初バラバラの紙芝居のような静止画のアップロードを考えていましたが、インターネットの広帯域化が到来した

のを機に動画配信へと進みました。

Q: ユーザーにはバイオGTをどのように使ってもらいたいと期待していますか？

A: やはりライブの楽しさを味わってほしいと思います。「誰でもできる」ようにと、URecSightは設計時に可能な限りわかりやすいインターフェイスになるようにしました。PC特有の難しさも極力排除して、簡単な設定で済むようにもしています。これからのライブ配信は技術者だけの世界ではなく、送る側も見る側も楽しめることが大事です。画質が悪いからブロードバンドまで待つのではなく、まずはやってみようとしてくれたらと期待しています。ともあれ私たちにとても初めて出荷するパーソナルキャスティング製品です。ユーザーからのフィードバックを楽しみにしています。



URecSightの命名の由来は鉱石「ウレクサイト」から。「テレビ石」という通称のように、紙の上に置くことでグラスファイバー効果で紙の下に文字が上に浮かび上がる。

インターネットマガジンはパーソナルキャスティングを応援します！

本誌12月号で紹介した、無料で使える個人向けのビデオストリーミング配信サービス「earthnoise.com」や、今回のバイオGTなど、ストリーミングの技術が個人向けに使われることで、パーソナルキャスティングは一気に現実のものとなった。誰もが気軽にホームページを作れるように、今度は自慢の手作りコンテンツを映像の形でみんなに公開する時代がやってきたのだ。今後、インターネットマガジンでは

PercasTVで放送される注目番組の紹介や番組作りの指針、編集部によるオリジナル番組のライブ放送などを通じて、パーソナルキャスティングの持つ可能性を大きく取り上げていく。バイオGTを片手に出前中継なども予定しているので、「こんな番組をやりたいんだけど……」という企画から、「こんな番組を公開しています！」というような自慢のコンテンツまでを広く募集していく。

[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp